

# 令和5年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源や地域の様々な活動を連携させることにより、まちとしての魅力が向上するとともに、新たな「コト」に取り組む多くの人が集まり、まちが賑わっています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	観光資源データベース登録数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				-					1,900
実績	-				-	1,752	1,752			

  

指標名	区が後援・共催した民間主体の観光関連事業件数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				40					45
実績	38				-	27	37			

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
隅田公園でのイベントなど観光協会や事業者が連携して実施している事業を、今後も支援し、地域の様々な資源や活動を連携させることで、地域の賑わいを創出していく必要がある。	R2	153,932
	R3	179,600
	R4	55,109

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	これまでは新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となっていたが、観光需要が回復していることから、観光協会と連携して、地域主体のイベント支援を進め地域の賑わいを取り戻していく必要がある。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
観光協会と連携して、地域主体のイベント支援を進め地域の賑わいを取り戻していく必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
観光協会や事業者との連携強化を図り、地域主体のイベントを支援し、地域の賑わいを取り戻していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
		評価対象年度				
1	地域DMOの推進	54,000	8,179	62,179	39,000	改善・見直しの上継続
					-	令和4年度
2	水辺空間を活用した賑わい 創出事業	1,109	4,089	5,198	4,800	改善・見直しの上継続
					1,984	令和4年度
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

施策	122	区内の観光資源や様々な活動を連携させ、楽しめるまちをつくる	部内優先順位
事業名	観光地域づくり法人(地域DMO)への支援		1
目的	地域活性化をけん引するコーディネーターであり、日本版DMO法人として都内で唯一観光庁に登録されている墨田区観光協会を支援することで、民間の活動促進、交流による関係人口の増大、シビックプライドの醸成等を通じ、持続可能な観光振興を図る。		主管課・係(担当)
			観光課観光担当 03-5608-6931
対象者	区内観光事業者、観光客		
根拠法令 関連計画	産業と観光の将来構想		
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託 人員体制・委託先 常勤1人・一般社団法人墨田区観光協会
事業内容	(1)観光地域づくりにおける合意形成 (2)データに基づく戦略の策定・実施 (3)地域への支援を通じた戦略共有 (4)地域が提供するサービスの体制構築等 (5)情報発信・プロモーション (6)受入環境の整備 (7)観光資源の磨き上げ ※ 観光支援施設の整備を含む		
経過	開始年度	平成29年度	終了予定
	平成30年3月30日 都内の区市町村で初めて地域DMO法人として観光庁に登録。 (令和4年度時点で、地域DMO法人として登録されている自治体・観光協会はない。)		
議会質問の状況	平成30年 第1回定例会 日本版DMOの観光庁への登録の進捗状況について 平成30年 第2回定例会 地域DMOの推進事業の進捗状況について 平成30年 決算特別委員会 地域DMOの推進事業費について 平成31年 予算特別委員会 地域DMOの推進事業費について 令和元年 9月定例会 地域DMOの推進事業の進捗状況について 令和2年 3月産業都市委員会 地域DMOの推進事業の進捗状況について 令和3年 3月予算特別委員会 観光地域づくり法人(DMO)への支援経費について 令和4年 3月予算特別委員会 観光地域づくり法人(DMO)への支援経費について 令和4年 11月決算特別委員会 観光地域づくり法人DMOへの支援経費について		
その他 特記事項			

予算・決算額推移(単位:千円)	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算現額(事業費)	6,000	14,000	16,000	42,750	54,000	76,123
A.決算額(令和5年度は見込み)	6,000	12,694	14,760	42,750	54,000	76,123
財源	国					
	都					
	その他					
一般財源	6,000	12,694	14,760	42,750	54,000	76,123
執行率(%)	100.0%	90.7%	92.3%	100.0%	100.0%	100.0%
B.人コスト		4,369	7,058	8,796	8,179	
総事業決算額(A+B)	6,000	17,063	21,818	51,546	62,179	
予算書P(令和5年度)	P205・206、3(1)(2)		執行実績報告書P(令和4年度)		P147 3(1)(2)	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和3年度（決算）			令和4年度（決算）			令和5年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
負担金補助及び交付金	補助金	42,750	負担金補助及び交付金	補助金	54,000	負担金補助及び交付金	補助金	76,123

事業の成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	DMO法人(観光協会)の主催・共催等イベント件数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		55	R7	目標		50	55	60
				実績		47	48	53
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	30	30	40	45	50	55
	実績	15	27	46				
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光協会主催、共催等のイベント件数を指標とすることで、イベントを目的に来訪する観光客数が把握でき、直接的な効果を測定できるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	旅行消費額				単位	百万円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		46,000	R7	目標				
実績								
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		2,040	31,000	39,000	46,000			
実績	25,918	-	-					
指標の選定理由及び目標値の理由								
DMOへの支援を通じて観光振興を図り、観光客が増え旅行消費額が増加することで地域の活性化を促進する。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	DMOが主体となり、墨田区、事業者、地域と連携・協力しながら観光需要回復後へ向けた準備を進める。

課題・問題点
DMOが、地域や民間事業者と連携しながら、地域が主体の取組を継続できるよう支援していく。

施策	122	区内の観光資源や様々な活動を連携させ、楽しめるまちをつくる			部内優先順位
事業名	水辺空間を活用した賑わい創出事業				2
目的	東京都長期ビジョン(平成26年12月策定)において「世界一の都市・東京」の実現を目指す中で政策指針として掲げられている「隅田川における恒常的な賑わい創出」を推進するに当たり北十間川周辺エリア(隅田公園及び小梅橋船着場を含む)や両国リバーセンター等において、継続的な賑わい創出、地域の活性化に資することを目的に、地域や民間の発意による主体的な組織を図り、水辺の公共空間等の利用を促進していく。				主管課・係(担当)
					観光課観光担当
					03-5608-6500
対象者	本区を訪れる観光客、区民				
根拠法令	産業と観光の将来構想				
関連計画					
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤1人
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水辺空間を活用したイベント等の実施</li> <li>●小梅橋船着場社会実験の実施</li> </ul> 本船着場を活用した社会実験を実施し、①観光舟運活性化に資する新たな管理運営方法、②舟運事業者の需要調査、③利用者の需要調査について検証・検討を進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●東武鉄道株式会社との協定に基づく協議</li> </ul> 東武鉄道株式会社と連携し、本船着場を含めた北十間川周辺エリア全体の一体的な賑わい創出と、効率的かつ効果的な運営手法の検討を進める。				
経過	開始年度	令和2年度		終了予定	
	令和2年度	東武鉄道株式会社との協議(計5回) 小梅橋船着場社会実験開始(令和3年3月1日から令和4年3月31日まで)			
	令和3年度	東武鉄道株式会社との協定に基づく協議(定例会開催) 社会実験延長(令和5年3月31日まで)			
	令和4年度	東武鉄道株式会社との協定に基づく協議(定例会開催) 社会実験延長(令和6年3月31日まで)			
議会質問の状況	【令和4年11月 決算特別委員会】 令和3年度における小梅橋船着場の社会実験の結果について				
その他特記事項					

予算・決算額推移(単位:千円)		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算現額(事業費)				900	1,343	1,329	1,479
A.決算額(令和5年度は見込み)				0	1,079	1,109	1,479
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	0	0	1,079	1,109	1,479
執行率(%)		#DIV/0!	#DIV/0!	0.0%	80.3%	83.4%	100.0%
B.人コスト				3,529	4,398	4,089	
総事業決算額(A+B)		0	0	3,529	5,477	5,198	
予算書P(令和5年度)	P205 2(3)	執行実績報告書P(令和4年度)			P147 2(3)		

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和3年度（決算）			令和4年度（決算）			令和5年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品費	11	需用費	消耗品費	4	需用費	消耗品費	130
委託料	社会実験企画実験	244	役務費	清掃費	0	役務費	清掃費	50
負担金補助及び交付金	タブロイド紙発行	825	委託料	社会実験企画	280	委託料	社会実験企画	299
			負担金補助及び交付金	タブロイド紙発行	825	負担金補助及び交付金	タブロイド紙発行	1,000

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	運行便数				単位	本
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		240	R7	目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	20	240	240	240	240	240
		実績	8	189	176			
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本船着場を利用する船の運航便数とし、240本(月間20本×12月)を目標値とする。 ※令和2年度3月1日から社会実験を開始したため、基準年を令和2年度とする。また、令和2年度の目標値は3月分(20本)のみとする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	乗下船人数				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
4,800		R7	目標					
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標	400	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	
	実績	53	1,459	1,984				
指標の選定理由及び目標値の理由								
本船着場を利用する船の乗下船人数とし、4,800人(1日20人×12月)を目標値とする。 ※令和2年度3月1日から社会実験を開始したため、基準年を令和2年度とする。 また、令和2年度目標値は3月分(400人)のみとする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	社会実験を実施する中で、①定期的な舟運運行の可能性、②本船着場運営方法、③舟運事業と水上イベントの連携方法を検証していく。引き続き、民間事業者と連携し、本船着場を含めた北十間川周辺エリア全体の一体的な賑わい創出と、効率的かつ効果的な運営方法の検討を進める。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症の影響もあり、本船着場の認知度は低い現状にある。そのため利用する舟運事業者も少ない状態が続いていたが、コロナ収束による観光客の増加から乗船人数は増加している。引き続き、隅田公園そよ風ひろばを中心に北十間川周辺エリアで実施されるイベント等と連携し、舟運事業者および利用者からの需要を検証する。</li> <li>●本船着場の管理運営方法について検証しつつ、今後の事業スキームのあり方を検討していく必要がある。</li> </ul>